

総括・評価

【総括】

中央図書館リニューアル1年を迎え、利用者がそれぞれの図書館を使い分けられる中、双方共に従来以上に地域に根ざした図書館を標榜し活動。中央図書館では温故館との情報交流や文化会館、福祉会館と連携した「サンカンフェス」、また扇町エリアマネジメントとのコラボイベントを開催。一方有馬図書館では念願だった「図書館を使った調べる学習コンクール」を開催し全国での入賞作品を輩出、また1年以上準備して取り組んだ「特撮映画美術監督 井上泰幸展」を実現。学校はもとより市の関連部署を巻き込み、参加者からも高い評価を得る事が出来た。また年度末に開催された社会教育委員会から、指摘やアドバイスを頂きつつも、それぞれ高い評価を頂けたのは嬉しい限りである。来期も利用者からの声に真摯に向き合い、引き続き図書館の魅力づくりに邁進しつつ、それぞれの強みに磨きをかけ、連携しながら海老名の文化、学びの機会を増やし知的拠点、情報交流としての場を創造していきたい。

【中央】

H28年10月1日にリニューアル1周年を迎え、実績としては来館者数約70万人、貸出冊数約70万冊、貸出利用者数約25万人といずれもリニューアル前と比べて140～160%まで利用増。有効利用登録者数は現在、約4.8万人を達成。継続して多くの方にお越しいただき、ご利用いただいている。貸出冊数や貸出利用者数は前年を上回る利用が見られる月もあった。継続して図書館の利用促進をはかっていきたい。その他、H28年度は特に利用者満足向上と従業員教育に力を入れた。リニューアル1年を迎えて、改めて利用者アンケートを実施。約700名の方の回答を得た。その中で課題が大きかったひとつとして、学習席の数を増やしてほしいという意見を得られた。学習室の利用数が多い中、なかなか座れないという課題はリニューアル当初から見受けられていたため、今年度学習席の増席し、増席した分は時間入替制で運用して、多くの方に学習いただける環境を整えた。またその他の課題としては、棚からの本の探しにくさが上げられた。こちらについてはシステム改修を行い、WEB表示とレシート印字の変更、また配架図の設置を行った。従業員教育については、外部から講師をお呼びした形の研修や、内部研修として、障がい者差別解消法研修、レファレンス研修、接遇研修など知識の向上とサービス向上を目的として積極的に取り組んだ。また障がい者就労支援のご縁があり、現在2名の障がい者雇用も実現できている。次年度はこれらの成果の効果測定ができるように取り組んでいきたい。

【有馬】

中央図書館休館に伴う代替措置の休館日削減（月1回の館内整理および特別整理期間、年末年始のみ休館）を今年度も継続。統計面では、来館者数・貸出冊数とも若干の減少傾向であったが、年度末回復の兆しが見られた。今年度の目標のひとつであった新しい発想の講座については、料理研究家ウー・ウェン氏、市内で活動する山内氏兩名によるそれぞれ違った切り口の料理講座や、YA世代に向けたボイストレーニング等を実施。また、こうした企画を通じて、農政課、就学支援課、障がい福祉課など庁内の枠を越えた連携を持てたことや、海老名中央農業高等学校などの外部とのコラボレーションを進めることができたのは大きな収穫であった。郷土・地域資料の収集・情報発信に関しては、「特撮映画美術監督 井上泰幸展」に企画の立ち上げ段階から携わり、多方面の協力を得て実施に漕ぎつけた。今後も、海老名の持つ隠れた財産・功績を積極的に探し紹介していきたいと考えている。学校支援事業は、図書購入費増額、書架増設等の大幅なレイアウト変更、システム更新といった課題が重点項目だった。図書館、学校双方での大きな目標だった「第1回海老名図書館を使った調べる学習コンクール」でも、全国コンクール推薦2作品とも入賞を果たすなど大きな成果を上げた。運営面での反省点を踏まえ、次年度はより充実した作品が集まるよう準備を始めている。有馬図書館の落ち着いた環境を生かしながら、一層のサービス向上、魅力的な蔵書構成等により、さらに地域に根ざした図書館づくりに努める。